

精神保健福祉施設職員への研修

京都精神保健福祉施設協議会

〒604-8845 京都府京都市中京区壬生東高田町 1-15

社会福祉法人 光彩の会 京都市朱雀工房内

助成事業の概要

○総会記念ワークショップ：平成 23 年 6 月 19 日 参加人数 35 名 講師 1 名 身体を使いながら、自分の状態を知るワークショップ。援助者のセルフケアに有効な数々のワークを体験した。

○事業移行研修：平成 23 年 7 月 31 日 参加人数 21 名 講師 4 名 移行した事業所から移行前準備、移行手続き、移行後に起こったことなどの話題提供後、個別質疑に応答した。

○1 泊施設見学・交流研修会：平成 23 年 10 月 14～15 日 参加人数 26 名

京都府北部地域で先進的に様々な事業を展開している「よさのうみ福祉会」の各事業所の視察及び交流。宿泊も三セク運営で破綻した施設運営を同会が引き受けた「リフレかやの里」を利用し、多機能型事業所としての運営管理方法を学んだ。

○面接技術向上のためのロールプレイング研修：平成 24 年 3 月 31 日 参加人数 17 名 講師 3 名

副題を～「エッ!？」と思う言葉や場面に～に設定し、1 グループ 3 名で順番に相談役、面接者役、観察者役になり、次に講師のロールプレイと講義を踏まえながらロールプレイを行った。

事業の成果

○総会記念ワークショップ：参加者感想（A 非常に良い経験をさせて頂きありがとうございます

た。出来れば一度職場でもしていき、職員との交流を深めていきたいと思っています。B あらためてからだをほぐすことは自分をほぐすことが大切であることを感じました。気一体のバランス。ふっとする息をつねに感じながら、やっていきたいです。）日常使いながら見落としている自分のカラダに目を向けるきっかけとなる数々のワークを体験することは、セルフケアのみならず、利用者の変化に気づく技術幅が広がるように感じ、目的達成度は高いと考える。

○事業移行研修：行政が開催する大規模な説明会では判明しない個々が抱える細かな悩みを、移行した事業所が丁寧に答えることで、内容の濃い身のある研修になった。また、当会の事業にこれまであまり参加してこなかった施設からも参加があり、そのニーズの高さと切実さが伺えた。

○1 泊施設見学・交流研修会：よさのうみ福祉会の歴史をたどると、1960 年代から地域に養護学校設置を目指して始まった運動が、卒業後の活動場所開設にもつながり、京都府初の作業所設置等、事業が拡大している。それは広域で利便性が無い中、地域のニーズを満たす不断の努力の結果であることが想像できた。地域に対する責任を果たさないと市民からの援助を頂けないのはどこも同じである。しかし利用者の就労したい思いを実現するため、人手が少ない部署をスタッフが無給で手伝いしているなど厳しい現場もかいま見え、支援法等の制度がいかにか日常にある難しい現場を想定できていないかが感じられた。

○面接技術向上のためのロールプレイング研修：
参加者の感想からそれぞれに日常業務に活かせる
ヒントを得ていると推測できる。参加者感想：A
他の人の面接方法を見せてもらうことで、新たな
技法に気付くことができた。また、客観的に面接
を見ることで、これまでみえてこなかった「沈黙」
「間」を認識できた点が良かったです。B 短い時
間の面接で、ただ聴くのか、何かゴールを持って
(定めて) 聴くのか。その違いを感じた。今後使
い分けたい。C すぐに問題解決しそうになるので、
クライアントと一緒に目標を設定できるようにし
たい。

■ 今後の展開

昨年から政局が混迷を来す予期せぬ出来事が起
こっていることにも影響を受け、政権交代で支援
法廃止をうたった事が蔑ろにされ、新法成立を目
前に、支援法が改正されて継続されることが現実
味を帯びつつある。貴会から助成頂いた研修を糧
にして新たな展開を生み出すことを考えていく一
方、元々脆弱な基盤が崩壊しないよう、情報を共
有し、一丸となって、精神障害者の暮らしを支え
ていく基本活動の継続に力を注ぐ必要があると
考えている。